

ラボを主宰

国連の持続可能な開発目標「SDGs」の

活動で、慶応義塾大学の

リーダーとして知ら

れる大学院政策・メディア

研究科の蟹江憲史

教授。湘南藤沢キャン

パス(SFC)のS

FC研究所の一つ「x

SDG・ラボ」を主宰

する。また企業や自治

体が集まる「xSDG

▽71△

## 日本を変える 17Goals

# 事例創出へ産学連携

その結果、現在の人Gsを軸にどのようなアイコンもコミュニケーション約700人は何もし行動すべきか。学生ケーションに役立つ」良品」の各商品がSDGsの観点から分析し、子どもたちが定DGsの観点で地域の。地域とは逆に、国連の会議にも学生を連住すれば約1000人、いいとこ探し」を連の会議にも学生を連の適正規模が可能と導し、地元企業の聞き取られて行き、別の刺激も与えている。

### 商品进行分析

企業との共同研究で

「ガニックで好ましいが、廃棄の食料ロスの視

### 本質に目向ける

現在の課題はウィズコロナ時代の道しるべとしてのSDGsだ。例えば食料生産のサプライチェーン(供給網)が新型コロナで途切れ、地産地消が重要な目標になってきた。



「SDGsは目標が決まっているがやり方は自由。おもしろそうという気持ちで取り組める教育ツールだ。カラフル



またコンソーシアムでは17の目標と169のターゲットを切、地産地消が重要な目標になってきた。xSDG・ラボより本質に目を向ける活動が進むことになりそうだ。

## 慶応義塾大学

自治体との連携では兵庫県豊岡市内の限界集落で、持続可能な発展を検討する取り組みが好事例だ。学生のフィールドワークとして出向き、親世代・子世代に聞き取り調査をし、ターゲットとアクションを定めるワークショップを行った。

米国・国連本部の国連社会経済局を訪問(昨年7月)

(18年2月)